

【年間テーマ 抑制に対する認識、理解、行動】

平成 28 年 8 月 18 日提出

日付	平成 28 年 8 月 6 日 (土)			
場所	博多セントラーゼ		記録者名：小松 智美	
出席者 (敬称略)	中川 未希	平野 敦士	木村 岬	
	藤井 貴子	山下 真智子	小松 智美	
	雨宮 利江子	平岡 絹江		
テーマ	各病院での抑制状況の確認 (スピーチロック、ミトンの使用時間等)			
結論	<p>M チューブは長さの短い物を使用したり、髪と一緒に編み込んだり、耳元で止める。長袖やアームウォーマーを着用し、指先まで保護する。ミトンの使用時間を少しでも短くする。家族に協力を依頼し、見守り注入する。スピーチロックについては、表を目につくトイレ等に掲示し、意識を高めている。昼礼時に抑制言葉を使用していないか反省会を開く。スタッフ同士で声をかけあっている。年上の人や、経験年数が長い人には、注意しづらいので上司から伝えてもらっている。などの意見があった。</p>			
決定事項	<p>どこの病院さんでも抑制廃止に向けて、積極的に取り組んでいるので、このまま継続し、問題があればこの会に持ち寄り、色々なアイデアをもらい、再度持ち帰って実施していく。</p>			
備考	<p>“お待ちください” “〇〇してください” は、命令形になるので、抑制としてとらえているという病院もあった。</p>			
次回討論項目	<p>次回は、各病院の抑制状況の確認と、不潔行為についての状況を発表する。</p>			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@famcf.jp

(FAX.092-691-3961)